



第51回

「若布献上の儀」

皇室へ若布を献上

四月五日、早春の玄界灘の天然若布を宮中賢所、天皇皇后両陛下、皇太子同妃両殿下、三笠宮殿下、彬子女王殿下へ、高向宮司、田畑利治氏(宗像漁業協同組合理事)、永島孝人氏(宗像漁業協同組合監事)、随行神職の四名が宮中へ参内し、恙なく献上申し上げた。

この皇室への若布献上は、昭和三十八年に、「宗像七浦」と称される、大島・鐘崎・神湊・勝浦・地ノ島・津屋崎・福間の組合員で結成された「宗像大社海洋神社奉賛会」設立の際に、宗像大神の御神徳が、国家・皇室の守護であることから、皇室の御安泰と聖寿の長久万歳を祈念して始められた。今年で五十一回目を迎えたこの「若布献上」は、秋の「みあれ祭」と並び、同会の一大行事である。今年、二月中旬までは天候に恵まれ若布



神社を出発する一行



平成ノ大造営

時満ちて 道ひらく

余滴

当大社では五月二十七日に日本海海戦の勝利を記念して、沖ノ島で現地大祭を行っている。全国から

毎年約二四〇名余りが参拝する。一年に一度、一般の人が渡島の機会を得る日である▼明治三十八年沖ノ島の北西の海域で東郷平八郎率いる連合艦隊とロシアのバルチック艦隊が交戦し、勝利した日である。東郷平八郎は「皇国の興廢この一戦に有り各員一層奮励努力せよ」の乙旗を掲げ、全軍の士気を鼓舞し、国の存亡を賭けて戦い国の危機を救ったのである▼当大社儀式殿の一室の床の間に一幅の掛け軸がある。そこには「いかならむ事にあひてもたわまぬは わがしきしまの大和だましひ」東郷平八郎直筆の明治天皇の御製がある。どんな国難にあつても屈しない日本国民が持つ大和だましひを詠まれた歌で、国の命運を賭けて戦った明治時代の日本人の精神が伺える▼今、日本を取り巻く国際情勢は難しくなっている。言うまでもなく中国との領土問題や北朝鮮の核弾頭配備など周辺諸国の脅威である▼平和ボケにより、国家観や民族意識を失った日本に我々現代の人が学ぶべきことは、明治という時代を生き、支えた先人達の、国を守る気概であり、真の日本人としてのあり方ではなからうか▼ところで、当社の神宝館には日本海海戦の様相を記した当時の日誌や東郷平八郎と縁のある品が展示されていますので、是非ご覧下さい。(杉)

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



今年の献上者、田畑氏・永島氏

も順調に生育していたが、二月下旬での寒の戻りの影響で若布採取開始が例年より一週間程遅れた。また、三月に入っても時化が続く悪条件の中、関係者の御尽力により、濃緑で磯の香りの強い良質な若布が採取された。伝統的な技法で天日干しされた板状の乾燥若布が、三月十九日に当大社に奉納され、神職・巫女が厳選し形を整えながら規定の量を袋に納め、献上の準備が進められた。

献上前日の四日、午前十時

る方々には、当社より記念品として張子の縁起物が手渡された。献上当日の五日、午前十時より高向宮司以下四名は坂下門より宮中へ参内。掌典長手塚英臣氏に高向宮司が若布献上で参内の旨を言上、同掌典長を通じて賢所に献上申し上げた。続いて、宮内庁長官風岡典之氏へ御挨拶の後、侍従職栗原勝氏を通じ天皇・皇后両陛下へ献上申し上げた。宮殿にて高向宮司が記帳後、宮中三殿参拝の

より本殿にて献上奉告祭が斎行され、杉箱に納められた若布を持って出社した。福岡空港では献上者をはじめ、例年若布を運んでいた全日本空輸株式会社の皆様が参列し、当社巫女より全日空客室乗務員への手渡し式が行われ、報道関係者の取材が続く中、若布は機内へ運ばれた。また、この便に搭乗す



奉製作業

仁親王付内閣府事務官竹内茂貴氏を通じて杉子女王殿下へ献上申し上げた。ここに宗像大社並びに宗像大社海洋神事奉賛会の春の重儀「若布献上の儀」を無事終えることができた。尚、本年も若布献上に際し、格別の御支援を賜りました出光興産株式会社、全日本空輸株式会社をはじめ、関係各位には紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

栄に俗し宮中での献上の儀を滞りなく終えた。宮中を辞した一行は赤坂御用地へ向かい、東宮侍従池田元一氏を通じて皇太子・同妃両殿下へ献上申し上げ、更に三笠宮付宮務官坂倉幸治氏を通じて三笠宮殿下へ、寛

| | | | |
|------------------------|-------|------------------------|--|
| 人事異動（神職） | | | |
| 四月一日付で人事異動を左記の通り行いました。 | | | |
| 宮司 | 高向 正秀 | 神宝館 館長 | |
| 権宮司 | 葦津 敬之 | 社務本局長 造営室統括(兼) | |
| 禰宜 | 葦津 幹之 | 庶務部 部長 | |
| | 渡邊 秀丸 | 文化財管理事務局長(兼) 経理部 部長 | |
| | 杉山 安彦 | 海洋分局長(兼) 祭儀部 部長 | |
| | | 宮司兼務社管理主任(兼) | |
| 権禰宜 | 長友 貞治 | 海洋分局事務局長 | |
| | 佐々木大治 | 祭儀部 儀式課課長 | |
| | 中原 裕生 | 祭儀部 賽務課課長 | |
| | 神島 亘 | 庶務部 庶務課課長 | |
| | 坂本 敬 | 庶務部 庶務課主任 | |
| | 御床 直之 | 経理部 会計課課長 | |
| | 大塚 宗延 | 庶務部 広報課課長 | |
| | 壹岐 貴寿 | 造営室 室長 | |
| | 松林 拓 | 造営室 室長代理 | |
| | 吉野 理 | 経理部 用度課主任 | |
| | 宗像 崇史 | 祭儀部 儀式課員 | |
| | 鈴木 祥裕 | 庶務部 広報課員 | |
| | 日高 庸介 | 祭儀部 賽務課員 | |
| | 船越 裕介 | 祭儀部 儀式課員 | |

お詫びと訂正

四月号掲載の人事一覧に誤りがございました。訂正してお詫び申し上げます。

(誤) 禰宜 葦津 敬之 社務本局長・御造営室長 (兼)
 (正) 権宮司 葦津 敬之 社務本局長・御造営室長 (兼)

春季大祭 齋行

四月一日・二日(月・火)両日に亘り春季大祭が齋行され、多くの参拝者で賑わいをみせた。

まず、三月三十一日午後五時から総社地主祭、同六時から宵宮祭が齋行、明日からの大祭が無事齋行される様、祈念された。

そして四月一日午前十一時一日祭が齋行され、高向宮司

より国家鎮護・皇室安泰・五穀豊穣を祈念する祝詞が奏上され、続いて氏子奉幣使の吉永久雄氏が奉幣詞を奏上された。次いで主基地方風俗舞保存会による昭和天皇御即位大嘗祭に由来する「主基地方風俗舞」、続いて玄海中学校女子生徒による「浦安の舞」が優雅に奉奏された。

翌二日は、生憎早旦より小雨が降り続く天候となったが、午前十一時より二日祭を齋行、海上安全・

大漁満足が祈念された。

祭典後には、みあれ祭等の海洋神事に功労ある各地区奉仕者に対し、宮司より感謝状と記念品が贈呈された。

二日祭終了後、第二宮、第三宮、宗像護国神社へと宮司以下各神職・参列者が参進、各祭場で祭典が齋行された。宗像護国神社春季大祭では、福岡県護国神社田村豊彦宮司をはじめ、宗像・福津両市の



本年の氏子奉幣使 吉永久雄氏

遺族等一〇〇余名が参列する中、護国の英霊をお慰め申上げると共に、恒久平和が祈念された。

また同刻、儀式殿では交通安全講話が齋行され、講員皆様の今年一年の交通安全も祈念された。

午後二時からは本殿で献茶祭が執り行われ、毎週熱心に茶道(南坊流)を学んでいる巫女を代表した一名が袱紗捌きも雅やかに御点前を披露し、たてられた御茶は祭員より神前にお供えされ、三十一日の総社地主祭から始まる春季大祭は滞り無く終了した。

禰宜に 杉山権禰宜

禰宜 杉山 安彦

國學院大學神道学科を経て、昭和五十九年同大学院を卒業後、同年四月宗像大社に奉職。同六十一年に権禰宜となり、平成十年賽務課長、同十三年儀式課長を経て、同十四年神職身分二級を受け、この度(神社本庁辞令四月一日付)禰宜に昇進致しました。現在祭儀部長、宮司兼務社・宗像護国神社の管理主任を務める。



各奉仕者、

表彰者は次の通り

氏子奉幣使

吉永 久雄氏

(宗像市河東地区・平等寺)

主基地方風俗舞奉仕者

【舞方】

清水 陽介

中野 久志

松井 実

松井徳一郎

【歌方】

石津 典秀

森 勝紀

中野 正徳

吉田 光利

浦安舞奉仕者

古藤 唯花 (玄海中学校二年生)

吉井 美紗 ()

山下優希菜 ()

黒石愛里菜 ()

海洋神事奉賛会事業功労者

田志 龍吉 (宗像漁協・大島支所)

古賀 達也 ()

廣渡 正 (同・福岡支所)

田畑 政義 ()

鐘川 五郎 (同・津屋崎支所)

井浦 清造 ()

権田 猛雄 (鐘崎漁協)

石谷 光年 ()



本殿へ参進する祭員・参列員



保存会による風俗舞



地元中学生による浦安舞

平成二十五年 春季奉納 剣道大会

四月七日春季恒例の剣道大会が、玄海中学校体育館にて行われ、小学生から中学生迄の剣士たち約二〇〇名が日頃の練習の成果を競った。

当日は雨天となったものの、午前九時の開会式には参加者・審判員・父兄等多くの人が体育館に集合、大会に先立ちお祝い



開会式



居合演武

を受け、一同宗像大社を巡拝した。その後居合の師範五名による模範演技が披露され、緊張感のある演武者の佇まいに見学者も圧倒され、緊張の面持ちであった。

試合が始まると、日頃稽古で鍛えた成果を發揮しようと、掛け声を張り上げて相手に挑む剣士達の姿が印象的であった。

一人前の剣士の姿であった。団体戦では昨年男子中学生団体の部で優勝した河東中学校が、男女共に三位以内に入賞した。又、昨年健闘を見せた城山中学校は男女共に団体の部で優勝するなど、目ざましい活躍を見せた。

約五時間に亘る熱戦も午後二時には幕を閉じ、参加者の小中学生は自分の力を出し切った清々しい表情で体育館を後にした。

約五時間に亘る熱戦も午後二時には幕を閉じ、参加者の小中学生は自分の力を出し切った清々しい表情で体育館を後にした。

第34回 春季奉納 吟詠大会

四月六日(土)、今年は生憎の雨模様となるも、春季恒例の神賑行事である奉納吟詠大会(主催・鶴洲流、宗家・河野鶴聲)が開催された。この大会は昭和五十一年より奉納されており、今回で第三十四回を迎えることとなった。

午前十一時三十分、当大社本殿において北九州地区を中心に近隣地区より同会員約

六十名が参集し、正式参拝並びに奉納吟が行われた。

奉納吟では国民道祖神の大神に、松口月城先生奉納の「宗像宮」を会員一同で献吟、満開の桜の中境内に朗々と響き渡ると、多くの参拝者がその美声に聴き入り暫し足を止め深い感銘を受ける様子が見られた。

献吟後、一同は清明殿へと



本殿奉納吟



清明殿式典

移動し式典が開会され、会員各々が順次日頃鍛えた自慢の喉で吟題に沿った吟詠が披露された。午後三時には当大社における日程の全てを終えて、一同バスにて直会会場へと移動した。

「宗像宮」

松口月城

三神鎮座す宗像宮

天孫を擁護して仁徳崇し

神武皇謨之に依って就る

肇国の大業之の中に成る

筑紫之山玄海之海

一山一水皇風を仰ぐ

河野さちさん(大島出身) 全国の調理師学生の頂点 内閣総理大臣賞受賞

大臣賞を受賞
されました。
三月に中村
調理製菓専門
学校を卒業

当大社中津宮の鎮座する大島出身で、お正月の巫女見習いの御奉仕を頂いた河野さちさん(二十歳)が、昨年二月下旬に東京で行われた、全国の調理師学校二七四校の卒業次生約一八、〇〇〇名を対象とした調理技術コンクールの全国大会に出場し、中国・北京の春をイメージした「春天故宮」がテーマの作品で、見事に大会最高賞の内閣総理

大臣賞を受賞されました。さちさんは、「自分の作る料理で患者さんが元気になってくれたら嬉しい」と語っておられました。河野さちさんの今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



内閣総理大臣賞 受賞作品

4月1日付で、巫女三名が新たに奉職致しましたので、ご紹介致します

①名前 ②生年月日 ③出身 ④経歴(学歴) ⑤特技(趣味) ⑥奉職理由 ⑦抱負

巫女 新人紹介



^{いし}^{いは}^{はるか}
①石井 遥
②平成6年8月4日生まれ (18歳)
③宗像市池田
④県立 折尾高等学校卒
⑤スポーツ全般。特に幼少から続けた水泳は得意です。
⑥巫女見習をした際に、本職の巫女さんが優しく丁寧に教えて下さり、大社で働きたいと思ったからです。
⑦参拝者の皆様に宗像大社にお参りしてよかったと感じていただけるよう、笑顔で明るい巫女になりたいです。



^{じんない}^{かえで}
①陣内 楓
②平成6年11月3日生まれ (18歳)
③宗像市樟陽台
④私立 福岡工業大学付属 城東高等学校
⑤スポーツをすることが好きで、中学校ではソフトボール部に所属していました。
⑥幼い頃から祖母に連れられ大社に何度も参拝し、巫女に憧れを持ち希望しました。
⑦笑顔忘れず、参拝される皆様が、穏やかな気持ちになっていただけるような、巫女を目指します。



^{ふくなが}^{あい}
①福永 愛
②平成6年11月13日生まれ (18歳)
③遠賀郡岡垣町
④県立 若松商業高等学校
⑤小学校～中学校までバレーボール部に所属し、今でもソフトバレーを続けています。寝ること(どこでも寝れます)
⑥大社に何度も参拝しており、その際に優しく笑顔で対応される巫女さんを目にし、巫女になりたいと思いました。
⑦参拝者の方が笑顔で帰っていただけるように、明るく丁寧な対応ができる巫女になりたいです。

新刊紹介

神の島 沖島

小学館より、五月十七日刊行

おきのしま

藤原新也・安部龍太郎著

「印度放浪」「東京漂流」等で知られ、現代を代表する写真家で作家の藤原新也氏の、沖ノ島をテーマにした写真集が小学館より刊行されます。神々の気配すら感じる沖ノ島と、まるで生きもののよう

に映し出された神宝の写真、その写真に被せた同氏独特の詩や短編で彩られています。さらに本年「等伯」で直木賞を受賞された安部龍太郎氏も

を賞された安部龍太郎氏も参画。「沖ノ島と宗像氏」を題材に、「奉助天孫而為天孫所祭」との御神勅の精神に則り、宗像一族が私心を捨てて只管に天皇を奉助する姿が、

同氏の間味溢れる文章表現で活き活きと描かれた歴史小説として描かれています。二人の眼と心に映った沖ノ島、それが融合した神々の息吹を感じさせる異色の一冊です。是非ご一読下さい。

(小学館刊行 定価2,800円)



藤原新也 安部龍太郎

二人の眼と心に映った沖ノ島、それが融合した神々の息吹を感じさせる異色の一冊です。是非ご一読下さい。

授与品用紙袋をリニューアル

本年より着工する『平成の大造営』にともない、授与品用の紙袋を一新致しました。



紙袋4種〈表面〉

紙袋4種〈裏面〉

デザインアップ

デザインコンセプト

宗像大社と参拝者を結ぶ『縁』・宗像三宮からなる『縁』・すべての道を主る『縁』 この『縁』を『円』で表現し、全ての縁が『時満ちて道ひらく』平成の大造営につながる。

屋外に喫煙所を新設

当大社では予てより懸念されていた分煙に向け、今春、日本たばこ産業(株)様より、分煙コンサル(無償)をしていただき、喫煙者而非喫煙者が共存できるように、屋外(第一駐車場前トイレ横)に正式な喫煙所を設置致しました。

神社としての景観を損ねることなく杉材で建造し、大人八名程がゆったり座れる腰掛も設置され、気兼ねなく美味しい煙草を吸うことができる

空間になっています。この喫煙所を利用し、分煙にご協力下さい。



(続)

宗の寄物

277

いしただし



四月、宗像市のユリックスで中村研一特別展「大きなクスの木の下で」があつていたので観てきた。作品は四十九点、そのうちには壺や皿に絵付した陶磁器類もあつた。中村研一と関係のあつた岡田三郎助

(婦人像)、児島善三郎(代々木の原)二点、琢二の作品もあつた。展示所蔵品は、宗像市の中村研一・琢二生家美術館や東京都小金井市立はげの森美術館の所蔵品は二十二点他に宗像市や個人蔵である。一九

二九年(昭和四)に制作された「中村正奇氏の肖像」の正奇氏は研一の妻富子の岳父である。海軍少将で海軍服姿の肖像画である。「戦争画のエスキース」六枚は制作不詳だが、戦時中のものであろう。素描である。

「日本海沖ノ島」は一九三

六年(昭和十一)沖ノ島に上陸して、沖津宮にむかう急崖を下から描いたもので、小品ながら重厚な筆致である。



「足柄」。観艦式の時のもの。外人ジャーナリストから「飢えた狼」と称された。



「英領マルタ島に戴冠式足柄参列の途次」一九三七年(昭和十二)は英王ジョージ六世戴冠式に重巡洋艦足柄に乗艦し、艦はイギリスやドイツ等欧州を訪問している。展示にはないが「南支某基地」は足柄からみた風景という。足柄については本紙に二二四・二七六回にも記しているが、日本が誇つ

た重巡群の一艦で、訪欧では「飢えた狼」と称されたという。艦は帰国後改装が行われ、魚雷発射管を追加したり前橋や射撃指揮装置などが近代化され、基準排水量が一三、〇〇〇トンとなっている。古賀市薦野の阿部敏氏は昭和三年に十七才で海軍に入り、十七年八月海軍生活をおくり、その間戦艦陸奥、出雲で欧州へ、長良、熱海、霧島にも乗艦、足柄ではジャワ、スマトラ沖海戦にも参加、「眼前に沈みゆく敵巡洋艦、駆逐艦を見て喝采した」と薦野の戦記(一九八四年)で記

している。研一は大戦中には従軍画として活躍、戦場を巡って多くの作品を制作している。一九四二年(昭和十七)シンガポールを振出しにインドシナ(仏印)を旅し、展示の「シンガポール」の道一九四三年(昭和十八)やコタバルは戦争画としても、芸術的にも非常に高い評価を受けている作品である。一九四五年になると戦況は厳しくなり、アメリカの空襲がはげしくなり、研一は茨城県知人宅に疎開、代々木初台の自宅は焼け、作品のほとんどを焼失した。西荻窪に仮住いの後、小金井市中町に転居、ここに永住する。一九六七年(昭和四二)死去。平成元年にこの敷地に中村研一記念美術館が開館した。宗像が誇る大画家である。戦後の作品にも感銘を受けた。



九佐藤和正 巡洋艦入門 恐るべき機動能力の実態 その誕生から機能の全てを写真と図版で徹底解剖!

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



北九州市 八幡西区 豊田 光子
 「生と死」は紙一重にて夫の祥月を音なきままに春の匂ひす
 夫を身近に感じる作者か。へ死者なれど夫は身近にゐ
 るやうで祥月三月春の〜など。

宗像市 日の里 石松 弘次
 押すゆびに雨傘一度に開きたり我が脳細胞かく閃めかず
 ボタン一押しでさつと開く傘のように脳も閃いたら良
 いのにと作者、共感する。

うきは市 浮羽町 向 則正
 人気なき故里の冬の海にきてうから恋ひて松籟をきく
 若かった両親や兄弟をを思う時、昔と変わらぬ松風の
 音。四句へ〜恋いつつ〜に。

福津市 若木台 山崎 公俊
 心字池の岸にひとりわがランチ鯉にはけつきよく頷かつなく終ふ
 一人、戸外で食事を取る作者だが、少し寂しそう。鯉は
 近くに來なかつたのか。

宗像市 土穴 山本 静子
 久しぶり卵かけごはんませおれば祖母に薬屋根蔵の頭ちくる
 卵ごはんに思い出が魅る作者、懐かしい味の一膳だつたらう。四句(祖母と〜)
 福津市 中央 池浦千鶴子
 やぶ椿の紅きりりん手折りたり手造の壺ひきたたせむと
 自作の壺を大切に思い、似合いそうな椿を手折る作者。
 気持ち直ぐ伝わる歌。

宗像市 日の里 大和美由紀
 紅海の花びら風に散る庭に味噌甕二つ並べて乾しぬ
 春になり、「そろそろ味噌作りを」と思う作者か。紅梅
 の花びらに季節が見える。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
 突堤のうごかざる灯ようごくのは尾をながくひく水面の灯影
 発想が面白いが、対比が強いのでへ突堤のあかり水面
 に映りいて揺れるそのかげ長く尾をひく〜とした。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ
 一才となりしひい孫名前呼ぶ母に答へり大声の「ハイ」
 元気の良さが声の大ききよく分かる。四・五句(こたふる大声で〜)と。

福津市 若木台 野間 精一
 花鶴川の河口の岸に群生のハマボウの花を今年も見たし
 今年の夏も行って花を見られるようにと願う作者。へ花
 鶴川河口の岸に群生する〜に。

宗像市 池田 森 龍子
 三種類の落し蓋あり親しみて取得なき吾の煮物の旨し
 煮物名人の作者。語順を変えへ親しみて使う落し蓋三種
 持ちわが煮る煮物いずれも旨し〜とした。

北九州市 八幡東区 永田久美子
 七色の煙も消えて五十年今日も輝く帆柱の峯
 昭和三〇年代には八幡製鉄所の煙は地元の自慢だつた。二句(煙の〜)に。

宗像市 田久 巻 桔梗
 髪をくろく戻して五ミリ眉あげて弥生に蛻をぬぐ十五歳
 茶髪・剃りの入った眉の少年が進学で姿を変えたのを
 見て成長したと思う作者。

◆選者詠
 掌のなかの巣落ち子雀かへすすべ思ひつけねば草生に放つ
 椎茸が水にひそかに膨れをり秘密知るひと増えゆくに似て

俳句作品集

第五九四回

- 宗像市 武丸 白土 凌一
桜咲きメジロも鳴きて春來たる
- 宗像市 日の里 石松 弘次
椿咲き一日うららの日和かな
- 宗像市 日の里 花田いつ枝
剪足の音遠さがる雲もまた

5月祭事暦

- 1・15日 月次祭
午前10時〜高宮祭、第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時〜総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)
- 5日 五月・浜宮祭
午前10時30分〜浜宮祭
於=宗像市神湊 浜宮
午前11時〜五月祭
於=宗像市江口 五月宮
- 27日 沖津宮現地大祭
午前7時大島港 出港
於=沖ノ島・沖津宮

編集後記

先日上京し、東京国立博物館で開催中の国宝大社社展に行ってきました。想像以上に凄いです。全国各地の神社の国宝、重文がこれほど集まることは先ずないでしょう。必見です。桜も散り、新緑の美しい頃となりました。昨年、土壌改良を行った藤の木が花を咲かせ始めました。もともと花木の少ない当大社、五月は藤、ツツジ、サツキ、と境内は華やかに彩られます。境内を散策し、当大社の初夏を感じて頂ければと存じます。▼大型連休中には藤の花も見頃かと。(益節)

発行所
宗像大社社務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五
福岡県宗像市田島三三三
電話 (〇九四〇)六二一一三二(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円